

2月29日

川の流れに沿って雑木林の中を上り、2つの小山を越えて2^{キロ}余り進んで原野を下り、さらに500^{メートル}ほど原野を下って、キンクシベツの後ろ側の沢を下り、2^{キロ}ほどで出発点であるチクベツブツの大番屋^{おおばんや}に到着しました。

私たちは、ここで冬を越した玉川慶吉氏と出会いました。まずは長旅の無事を祝い、糍^{こし}6キログラムと玄米12キログラムを分けてもらって酒を仕込んでくれるように頼^{たの}んでおき、同行したここ上川出身のアイヌ全員に手当を渡し、それぞれの家に帰しました。

この辺りはキツネがたくさんいるといい、セツカウシは一升^{いっしょう}入りの古い油の樽^{たる}をどこからか持ってきて、しばらく考えていたかと思えば、この樽^{たる}に三寸釘^{さんすんくぎ}（9^{センチ}の長さの釘）を3本、樽の外側から内側に向けて打ち、番屋^{ばんや}の裏に置いておきました。その日の夕方、セツカウシはキツネが1匹とれたと持って来て、料理してくれました。樽にしみ込んだ油の匂^{にお}いにつられたキツネがこれを舐^なめよう



キツネを狩^かるアイヌの図。画家の春木南溟^{はるきなんめい}が描いたもの。